

## 編集委員の熱意に脱帽です!

### ●同窓会報の編集に関わって…!

昨夕は北浦和の麗和会館で、今年度3回目となる浦高同窓会会報「麗和」の編集会議でした。これまで年1回、送られてきた会報をただペラペラとめくっているだけだったのですが、2月に編集委員の末席に指名していただいたのをきっかけに、6年分の会報を読んで参加しました。

先週末に同窓会本部から送られてきた同窓会会報「麗和」の20ページのゲラを、3時間にわたって編集委員12人で読みました。読むといっても、赤ペンを持って校正するので、何度も読み返しては文章の前後を確認しました。この原稿は、現在、浦高に勤務されている先生達(浦高OB)と事務局長たちが書かれたものや、先生達がOBの方々に依頼して送っていただいた原稿などです。私も、雑記『夏炉冬扇』を綴りはじめてからは、さまざまな場面で会報などを書いているので、会報を作るということや文章の校正というのは何となく解っているような気がしていたのですが、実際に編集会議に参加してみて、文章の流れや表題の付け方、紙面のレイアウトの数行にこだわる姿勢に目から鱗でした。

昨年4月10日発行の「麗和 第55号」を参考に説明させていただくと、川野幸夫会長の「グローバル人材の育成」という24年度の同窓会運営方針メッセージに続いて、「特集 東日本大震災 そのとき浦高OBは…」があります。昨年は、東日本大震災から1年後の発行とあって、OBの皆さんが震災時にどうあったかということだけでなく、3つの側面から問題提起しています。

### ◆「原発と二十一世紀のエネルギー」

(東北大学名誉教授・犬竹正明氏・高14期)

東北大学片平キャンパスで震災にあった犬竹さんは、原発事故は人工災害ではないかと指摘しています。そして、エネルギーの将来について火力、太陽光・風力、核分裂、核融合の4つのエネルギーについて「埋蔵量と不偏在」「環境負荷」「発電コスト」「安定出力」「安心」という5つの項目で多角的評価をしています。結論としては、核融合炉によるエネルギー供給を提唱されています。

### ◆「東日本大震災における復興支援のかたち

～サッカーを通じた絆～ (国立病院機構

仙台医療センター外科・島村弘宗氏・高35期)

仙台医療センターで勤務中だった島村さんは、地震発生後は野戦病院のような状態に対応されたそうです。そして、高校時代にサッカー部であった島村さんのところへ浦高サッカー部OB会から支援の話があり、宮城県サッカー協会への義援金へと橋渡しされたことが綴られています。

### ◆「震災に負けず前を向いて『お茶の北限』に挑戦中」(入間市博物館館長・黒澤一雄氏・高12期)

昭和52年に宮城テレビに入社したのをきっかけに、仙台市内に住まいを購入された黒澤さんは、家族を残して入間市の「お茶の博物館＝入間市博物館」で仕事をされていたそうです。黒澤さんは、茶の栽培を通じて「お茶の北限」を現在の新潟県村山市からさらに北の山形県鶴岡市に夢を託しているそうです。そして、ささやかな目標をもって実行すれば、災害で受けた心ノ痛みを乗り越えることができると信じている…と結ばれています。

\*

いや～、素敵な企画になっていたのですね。昨年、手元に届いたときには感じるものが少なかったのですが、改めて編集という目で見直すと、よくぞ寄稿していただいたものだと感心しました。

もう一つ、卒業生が在校生に知的刺激を与え続けている「麗和セミナー」も圧巻です。

### ◆「考えてみよう、日本の原子力の過去と現在、そして将来のことを！」(日本原子力発電(株)元常務取締役・武田充司氏・高3期)(5月16日)

### ◆「小惑星探査機『はやぶさ』のチャレンジ NASAに先駆けて成功した理由とは？」(JAXA 宇宙研究所教授・久保田孝氏・高31期)(7月9日)

### ◆「ケンブリッジのカレッジライフ」(ケンブリッジ大学大学院生・大谷朋輝氏・高58期)(9月16日)

### ◆「私とラグビー」(日本ラグビーフットボール協会専務理事・矢部達三氏・高14期)(11月22日)

\*

内容は割愛しますが、先輩達のお話にきっと在校生達は目を輝かして聴いただろうなあ…と思うような内容でした。この「麗和セミナー」は、2001年秋から始められたそうで、「在校生は知的刺激を受けつつ、かつて同じ校舎で学んだ先輩と自分を重ね合わせ、将来の自分を模索している」とリード文にあります。まさにその通りですね。

さて、編集委員は、星野和央さん(高4期・さきたま出版会会長)、田中薫さん(高11期・前宮崎公立大学人文学部国際文化学科教授)のお二人は編集のプロ、さらに小島正徳前事務局長(高14期)、鯨井光夫事務局長(高19期)、現役の先生達7人に混じって私も末席に座らせていただきましたが、今回は気持ちだけの参加でした。来年度の57号作成から企画会議、編集会議、原稿作成、校正会議で本格的に学ばせていただきたいと思います。現在の発行部数は3万部、皆さんの熱意の塊が情報量抱負で躍動する紙面になっています。さあ、来月お手元に届く会報「麗和 第56号」をお楽しみに…!